

## 教育実習期間における実習生の教員に求められる資質・能力の変化

○下永田修二（千葉大学）、菩提寺将、佐々木篤史、渡辺明日子（千葉大学教育学部附属中学校）、七澤朱音、西野明、杉山英人、小宮山伴与志、佐藤道雄、瀧澤文雄（千葉大学）

教育実習は、教員養成段階において教員の資質能力の形成に大きく寄与する重要な時期である。そこで、本研究では、教育実習中に教員に求められる資質能力をどの程度身につけられるかを検討するために、実習生の自己評価のみではなく、実習担当教員の評価も実施し、教育実習期間における保健体育科教育実習生の教員に求められる資質能力の変化について検討を行った。その結果、教育実習生は実習期間を通して、教員として求められている資質能力を全般的に高めていた。特に、実習生は生徒理解に関する項目で教員よりも高い評価を示す傾向がみられた。また、実習生の自己評価は、教科の指導力に関する項目で大きく向上し、実習指導教員の評価では、使命感や責任感、教育的愛情に関する項目で大きな向上を示す傾向がみられた。

## 跳び箱を使った運動遊びの授業実践

○蛭原正貴（八千代市立勝田台小学校）

小学校学習指導要領解説体育編（文部科学省，2008）における低学年の目標には、楽しく運動に親しむことと、各種の基本的な動きを身に付けることが掲げられている。しかしながら、近年、小学生の体力低下に伴い、楽しく運動に親しむことよりも、技能向上を目的とすることに特化した授業が行われがちである。

そこで、跳び箱運動を題材として、様々な遊びの場（ランド）を設定し、遊びの中から技能の向上や規律の学習を目指した授業実践を行った。対象者は、K小学校の2年生、31名とした。授業は屋外で行い、学習の場を6つ設定した。単元の学習前と学習後に技能テストを行い、技能の習得率を検討するとともに、各授業後は振り返りカードによる振り返りを行った。

実践の結果、技能テストを行った3つの課題のうち、2つの課題において技能習得者数が増え、授業後の感想を見る限りでは、跳び箱遊びを忌避する児童はいなかったと推察された。